

機関番号： 14503
 研究種目： 基盤研究 (B) 海外学術調査
 研究期間： 2007 ~ 2010
 課題番号： 19402041
 研究課題名 (和文)
 南アジアにおける女子教育及び女性のライフコースに関する総合的研究
 研究課題名 (英文)
 The Study on Women's Education and Life Courses in South Asia
 研究代表者 服部 範子 (HATTORI NORIKO)
 兵庫教育大学・学校教育研究科・准教授
 研究者番号： 70189570

研究成果の概要 (和文)：

南アジアは世界的にみて最貧地域とされ、ジェンダー差が著しいことが指摘されている。本研究は南アジア女性の現状を現地調査に基づき明らかにした。第一に、南アジア諸国では最近、女子教育施策（女兒の就学促進策や成人女性への識字教室など）が積極的に推進されていること、第二に、南アジアのジェンダーに関して、女性の日常生活の実態やライフコースの多様性や問題点を、国別、地域別、宗教別などにより明らかにした。

研究成果の概要 (英文)：

It is pointed out that South Asia is the poorest region in the world, and the gender difference is remarkable. It is clarified in this study the woman's current state in South Asia based on the field investigation. Main results are as follows.

1) It is positively promoted in South Asian nations the various policies for the women's education (the promotion plan for girl's entering school and literacy program for the adult female).

2) As for the gender of South Asia, the diversity of the realities and the life courses of women's daily lives and problems were clarified, and discussed by classifying by countries, religions and areas.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007 年度	3,200,000	960,000	4,160,000
2008 年度	2,900,000	870,000	3,770,000
2009 年度	2,900,000	870,000	3,770,000
2010 年度	3,200,000	960,000	4,160,000
年度			
総計	12,200,000	3,660,000	15,860,000

研究分野： 社会科学

科研費の分科・細目： 社会福祉学

キーワード： 南アジア, ジェンダー, 女子教育, 社会政策, ライフコース

1. 研究開始当初の背景

南アジアは多民族・多言語・多文化の複雑な社会を形成し、地理的な生活環境・条

件も多様である。この地域全体は世界的にみて最貧地域と見なされ、貧困、不健康、低い教育レベルなどの特徴が見られ、そして、ジェンダー格差が大きい。

1970年代から世界的に「開発と女性」「開発とジェンダー」の取組みが推進されるようになり、南アジアでの「女・子ども」に対する格別な配慮の必要性が認識され始めた。南アジア諸国においても、1990年代に入ると「女兒の10年」が定められ、女兒を支援する政策が始められた。同時期から成人識字率を高め初等教育を推進する計画も実施されている。

しかし、南アジアの女性・ジェンダーに関する研究はほとんどなされておらず、このような問題は等閑視される傾向にあった。近年、世界のすべての人が初等教育を受けることが国連の目標に掲げられ、このような問題はやっと顕在化しつつある。

このように、世界的な規模で女性教育や女性のエンパワーメントを推進する取組みが、現在、なされている。しかし、我が国では南アジアについて、たとえば、インドのIT産業など、ほんの限られたことしか知られていない。また、南アジアに関する研究は、わが国では地域的にはインド研究が中心で、ジェンダーを論じる研究も徐々になされるようになってきたが、これもインドを中心としている。イスラム圏の女性や子ども、家族に関する研究はほとんどない状況である。しかし、イスラムと女性・ジェンダーに関する社会的関心は近年、高まっている。

服部の南アジアとの関わりは1996年7月にネパールで開催された国際家政学会議の一プログラムに参加して以後である。1998年6月には同じくネパールで開催された南アジア地域における人々のエンパワーメント・ウェルビーイングに関する国際シンポジウムにも参加した。この会議では、南アジアにジェンダーの視点で初等教育を推進・普及させて識字率を向上させることが、子どもの死亡率を低下させ、人々の健康を増進させること、そして、個人をエンパワーし貧困・差別から解放することになるなど、現状をふまえた具体的な方策が活発に論議された。南アジアにおけるこのような会議や動向に、服部は大いに刺激を受けた。

岩崎と服部は2000年前後から中国・新疆ウイグル自治区における少数民族女性の生活調査に関わってきた。これは科研による学術調査で、その成果として『中国シルクロードの女性と生活』（岩崎雅美編、東方出版、2004）、『中国シルクロード ウイグル女性の家族と生活』（岩崎雅美編、東方出版、2006）などを公表した。新疆の少数民族はイスラム教を信じ、パキスタン、インドなどを含み広域的に東方イスラム文化圏を形成している。そこで、徐々にイスラムについての関心を強め、隣国パキスタンでの女子教育や女性に関

する現地調査を実施した。

1990年代からグローバル教育・エンパワーメントの重要性が指摘され、開発途上国における開発と教育・開発とジェンダーは、世界的な規模での重要課題として浮上するようになった。そして、21世紀に入ると、国連ではミレニアム開発目標が定められた。このような状況下において、南アジアの女兒・女性の教育・識字率の向上など、女性のエンパワーメントのための取組みは、世界的な規模での緊急課題の一つとなっている。

私たちは自分たちの以上のような研究経過と、最近の世界的な状況をふまえ、本調査研究を計画した。

2. 研究の目的

本研究では、南アジアにおける女子教育及び女性のライフコースについて、女性の健康・社会参画などに着目し、ジェンダーの視点から社会制度や社会経済的背景をふまえた総合的・学際的な研究を実施し明らかにする。

南アジアにおける女性の現状を、地球規模で位置づけて論じる。この地域の類似性に着目すると同時に、国別、宗教別、地域別、階層別などによる人々の生活の多様性にも着目し分析を試みる。最近の国別に実施されている女性関連の社会的諸政策や実際の取組み状況に着目する。

女性たちの日常生活の実態や意識をフィールドワークに基づき具体的に明らかにし、貧困・不健康などを生じさせている文化社会的要因を明らかにする。

南アジアの女性がおかれた社会的状況を改善し、この地域での女性の教育・社会福祉の改善に寄与し、女性のエンパワーメントを推進する方途を明らかにする。

3. 研究の方法

主たる研究方法は、現地での関係諸機関での情報収集、学校訪問などによる聞き取り調査などのほか、女性への聞き取り調査や民家訪問による生活調査である。

南アジア全般の女子教育の現状や女性の健康・識字率・社会参画の現状などに着目し情報収集する。南アジア全体及び各国について教育、女性・子どもに関する社会的政策・制度、社会福祉の施策など収集する。

女性のライフコースをとらえる上で、女性の識字・就学状況や日常的な生活圏・行動範囲などに着目し、女性の日常生活の実態や意識を明らかにする。特に女性の年齢段階に注目し、一人の女性の誕生から成長する一生のプロセスや、結婚、出産・子育てがどのようになされているかについて分析する。子どもの出生後、全人生において、ジェンダーによ

る差異は大きく、男女によって人生は全く相違すると考えられるためである。

南アジアはインド、ネパール、ブータン、パキスタン、バングラデシュ、スリランカ、モルディブの7ヶ国で構成されている。古い歴史を持ち、地理的にも広く、多民族・多宗教の地域であるため、人々は多様な生活を営んでいる。本研究では、大きく以下のような差異に着目して、調査対象・地域を選定した。

(1) 国別の差異は重要である。本調査の研究期間において、南アジア諸国では政情が不安定な国があり現地調査に危険が伴うこと、また、その他の諸事情・諸条件により、必ずしも当初の計画通りにはいかなかった。が、インド、ネパール、ブータン、パキスタン、スリランカにおいて現地調査を実施した。(2) 地域的には、都市部と農村部、特に山間部との差異に着目した。

1990年代からインドを中心にして経済自由化やIT産業の発達などにより、都市部では急激に社会経済的な変動が進展している。そこで、都市部と農村部とは経済的な格差が生じている。農村部では伝統的な生活が維持される傾向がある。

(3) 南アジアでは多様な宗教が信じられており、そして、すべての宗教が人々の生活、人生観などに深く浸透している。宗教についてはイスラム教、ヒンズー教、仏教の3宗教について、人々の生活の差異に着目した現地調査を実施した。

(4) 南アジアは広大で地理的な特徴も、北はヒマラヤ山脈、南はインド海洋世界に位置している。古くから、北部は相対的に貧しくジェンダー差別があるが、南部は保健・教育が進み男女平等的であることなどが対比的に指摘されている。そこで南アジアの南北による地域的な特徴にも着目し現地調査を実施した。

4. 研究成果

・ 研究の主要成果

本調査研究の成果について、まずは地理的に南アジア北部と南アジア南部とに2分類する。その上で、国別、都市部と農村部との地域別、宗教別などにより論じる。

(1) 南アジア北部

① 都市部

インドの首都デリーとマディヤ・プラデシュ州の州都ボパール、及びネパールのカトマンズ盆地において、女子教育の現状及び最近の社会的な取り組みや女性の生活状況について現地調査を実施した。特にインド都市部では急激な社会変動が進行中であり、女性に対しては教育のみでなく多様な女子優遇策

が強力に推進されていることを明らかにした。

② 農山村部

本調査研究の大きな特徴の一つは、南アジア北部の「世界の屋根」ヒマラヤの山岳地帯における人々の生活状況を明らかにしようとしたことである。南アジア北部の農山村部では、国別・宗教別などの要因にも着目し、教育状況や女性への聞き取り調査や生活調査を実施した。

現地調査を実施したのは、以下の地域である。ヒマラヤ山脈に沿って西から東へと列挙すると、インド・ラダック地方(ジャンム・カシミール州)、インド・ウッタラカンド州、ネパール、インド・シッキム・ダージリン、そして、ブータンである。

インド、ネパール、ブータンの3ヶ国ともすべての子どもの初等教育を実現するため、女子教育を推進する政策が積極的に実施されている。識字率や就学率を上げるための取り組みは、農山村部の隅々までに実施されていること、教育状況が近年、急激に改善していることを明らかにした。

その一方で、農山村部で子どもの教育を保障するには、教員不足、子どもが親元から離れ寮・下宿生活を強いられる、親の貧富の差により子どもの教育に差異が生じているなど、多様な困難を抱えていることが明らかになった。しかし、このような問題を改善する取り組みも、試行錯誤で進められていることが明らかとなった。

国別や宗教別にみると、女子教育や女性の生活状況については、次のような差異が見いだせる。

・インドでは政府の強力な女子優遇政策のため、若い年齢層では女子は男子より高い教育を受けている傾向がある。また、教員や公務員に女性の占める割合が圧倒的に多い。

ところが、宗教別に人々の生活実態や意識を見ると、ヒンズー教を信じている人々の間では極端な男児選好、女性差別が根強く続いている。たとえば、一家族に子ども2人という考え方が浸透してきているが、男児が誕生するまで子どもを産み続け子ども数が多くなったという家庭や、一家庭に女兒のみの場合、政府は格別な経済的な支援策を講じているが、ダウリー(結婚時の持参財)などに起因する女兒忌避の傾向は続いている。

・インドのチベット仏教を信じている人々やネパール山間部では、日常生活は老若男女を問わが協働して営まれてきた。しかし、僧院での修行は主として男子になされてきたため、

成人女性には非識字者が多い。近代的な教育は、近年、徐々に普及してきている。経済的に裕福な家庭では教育熱が高まり、農村部の子どもの中には親元を離れて都市部の私学で教育を受ける傾向が生じている。その結果、教育にジェンダーや貧富による差別が生じている。

・ブータンは伝統的には母系制社会であったが、現在、近代的な社会へと変容しつつある。

教育は義務教育ではなく、能力があれば高校教育まで無料という能力主義を採用している。ブータンではすべての子どもの教育を実現する上では、ジェンダーや貧富差より、人々が点在する地域の環境条件により、地域差の解消が当面の課題であると認識されている。現在もブータン仏教の僧院での宗教教育と近代的な教育が共存している。近年、諸外国の教育事情を参考にしつつ教育制度改革が進行中である。

ブータンでは「ブータン仏教」に基づいた政治制度や社会生活が維持されている。女性の教育や労働・職業の実態、そして、家庭生活などについて、2度の現地調査を実施した。その結果、農業従事者の家庭では妻問い婚や母系制が続いていること、近代的な教育制度・近代的な職業においては柔軟な制度・システムがつくられており、人々の生活にはブータン社会の伝統的な生活が引継がれていることを明らかにした。

チベット仏教

南アジア北部ヒマラヤの山岳地帯での人々の生活は世界的にみても厳しい生活環境条件で営まれている。また、この地域にはチベット仏教を信じている人々が多い。そこで、この宗教を信じている人々の生活に着目した現地調査を実施した。そして、人々の日常生活の実態や、ヒトの誕生から生長し死に至るまでの通過儀礼とチベット仏教との相互関連性を明らかにした。また、この地域に独特な妻問い婚や母系制などと、厳しい生活条件下で人々が適応して生活するための関連性を明らかにした。

(2) 南アジア南部

南アジア諸国の中でスリランカとモルディブ、また、インドのうちでは南インド、特にケララ州は、南アジア全体でみると、男女ともに識字率や就学率が際立って高い傾向が見られる。そこで南アジア南部のスリランカとインド・ケララ州において現地調査を実施した。そして、進んでいるという教育の現状や、その社会経済的な背景や現状の問題点

を明らかにした。さらに、ケララ州では都市部と農村部、キリスト教やヒンズー教、イスラム教など宗教の差異にも着目して調査を実施した。

まずは南アジア南部が北部より男女ともに識字率・就学率という教育の現状や問題点を明らかにしようと試みた。そして、このような現状の諸要因、背景を明らかにした。

南アジア南部で全体的に教育が進んでいる要因としては、以下の3点にまとめられる。

i) 北部の山岳地帯に比較しインド海洋世界に位置するという地理的要因、

ii) 古くから世界的な交流がありヨーロッパの特にキリスト教の影響を受けたなどの歴史的要因

iii) 農業中心の社会において海外への移民や出稼ぎが早くから盛んであった社会経済的要因など

以下ではスリランカとインド・ケララ州について国別に要約する。

① スリランカ

スリランカは多民族・多宗教の国であるが、仏教を信じる人々が多い。教育・医療は無償で保障され、男女とも初等・中等教育レベルの教育は普及している。しかし、高校・高等教育への進学希望者は多いが、入学可能な人数が絶対的に少ない。そのため、受験・進学競争が激化している。海外への出稼ぎ労働者は低賃金労働に集中し、その半数は女性の家事労働者である。

② インド・ケララ州

ケララ州はインドでは最も教育先進州であり、中央政府の教育目標値はすでに達成されている。州政府はその上を目指す多様な教育政策を実施している。都市部では英語教育が重視され高等教育レベルの教育が普及している。一方、農村部では政府の授業料無償化や給食サービスや、非識字の成人女性への識字プログラムが実施されているところもあり、州全体での識字・就学率を上げる試みがなされている。

州内には農業以外に産業があまり発達しておらず、教育を受けた人々の多くは中東など海外にIT関連の技術者や看護師などの専門職従事者として出稼ぎに出かけている。そのため州の人々の英語熱・教育熱が高いのである。州内には伝統的な社会構造が続いており、高等教育を受けた女性も、結婚し家庭で主婦をする人が多い。結婚後、継続できる職業は教員ぐらいしかない。

イスラム教

ケララ州の北部地域にはイスラム教徒が多くおり、かつ州内でも教育が遅れている。そこでイスラム教徒が多い北ケララで2度目の現地調査を実施した。

本調査研究の以前にパキスタンの女子教育などについて、若干の調査を実施していた。イスラム教を国教とするパキスタンでは、イスラム圏に共通に見られる「バルダ（女性を社会的に隔離する慣習）」が社会に深く浸透している。日常的生活・社会生活のあらゆる局面まで「男の領域」「女の領域」に分けて考えられ、女性の日常生活や行動は男性よりもかなり制限されている。そのため、女子教育は著しく遅れていることを明らかにしている。

本調査研究の期間中に、当初からパキスタン調査を希望していた。しかし、政情不安定などの事情により、現地調査が不可能であった。そのため、イスラム教徒の多いケララ州の地域で補足調査を実施したものである。

ケララ州のイスラム教徒でも、約20年前には男子は教育を受けても、女子はほとんど教育を受けていなかった。しかし、最近では女子も男子と同様に教育を受けるようになってきている。しかし、女性は現在も結婚後は家庭中心の生活をしている。しかし、隣国パキスタンほどバルダが厳しくないことが明らかになった。

- ・ 本研究の国内外での位置付け及びインパクト

わが国では南アジアの女性・ジェンダーに関する研究はほとんどなされていない。また、南アジアの女性のおかれた社会環境や女性の生活状況について、ほとんど知られていない。このような状況下において、本研究では現地調査に基づき、女性たちの日常生活の実態や意識、貧困・不健康などの背景にある文化社会的状況について、具体的かつ実証的に明らかにした。これにより、南アジアの女性の教育・社会福祉の改善に寄与するための、一資料を提供することができた。

- ・ 今後の展望

本研究は、わが国における南アジア理解を深め、南アジア女性の教育などの支援を促進する上で、重要な情報・資料となりうると考えられる。

本研究は世界的な規模で浮上している南アジアのジェンダーや教育の問題について、ささやかながら貢献することが可能であると考えられる。

さらには、南アジアの女性や社会状況と比較検討することにより、日本女性や日本社会の現状や問題点について再考する一助になりうるものである。具体的には日本における女子教育や家庭教育、女性の日常生活や社会関係・社会構造などについても再考し、新たな可能性を模索することにも貢献しうると考えられる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計14件)

- ① 服部範子, ヒマラヤの山岳地帯における人々の生活と人生—チベット文化圏を中心に— 『兵庫教育大学研究紀要』第39巻(印刷中), 2011, 査読無
- ② 服部範子, インド山間部における女性の生活と教育, 『兵庫教育大学研究紀要』第38巻, 93-102, 2011, 査読無
- ③ 太田まさこ, 社会指標で見る女性の状況と現実—インド、ケララ州を事例として—, 『アジア女性研究』第19巻, 1-17, 2010, 査読無
- ④ 服部範子・名須川知子・太田まさこ, インド・ケララ州における教育事情—2009年調査より— 『兵庫教育大学研究紀要』第37巻, 77-89, 2010, 査読無
- ⑤ 服部範子, ネパールにおける教育とジェンダー—2008年調査より—, 『学校教育学研究』第22巻, 103-112, 2010, 査読有
- ⑥ 岩崎雅美, 衣生活からみるブータン—伝統服の役割と変容を中心に— 『家政学研究』第56巻2号, 59-68, 2010, 査読有
- ⑦ 服部範子・黒川衣代, スリランカ女性の教育と労働—その現状と課題— 『兵庫教育大学研究紀要』第36巻, 79-87, 2010, 査読無
- ⑧ 服部範子, 南アジアの女性とジェンダー政策 『家族研究年報』第34号, 109-124, 2009, 査読有
- ⑨ 服部範子, パキスタン・パンジャーブ州における女子教育の現状と課題 『日本家政学会誌』第60巻4号, 371-380, 2009, 査読有
- ⑩ 加納光子, ネパールの高齢者ホーム 『人間学研究』第24巻, (武庫川女子大学人間学研究会) 21-30, 2009, 査読無
- ⑪ 岩崎雅美, 伝統服を着たブータンの人形, 『人形玩具研究 かたち・あそび』第19号 (日本人形玩具学会), 72-74, 2009, 査読無
- ⑫ 服部範子, ネパール・ネワール族少女の擬似結婚の儀礼—その実態と意味について— 『家政学研究』第55巻2号 (奈良女子大学家政

学会) 86-94, 2009, 査読有

⑬ 服部範子・名須川知子・黒川衣代・加納光子・岩崎雅美, インドにおける女子教育及び女性のライフコースデリー及びボパールでの調査(2007)より一(第2報), 『兵庫教育大学研究紀要』第33巻, 101-114, 2008, 査読無

⑭ 服部範子・岩崎雅美・加納光子・黒川衣代・名須川知子, インドにおける女子教育及び女性のライフコースデリー及びボパールでの調査(2007)より一, 『兵庫教育大学研究紀要』第32巻, 53-65, 2008, 査読無

[学会発表] (計4件)

① 岩崎雅美, ブータン王国の特色について—平成21年9月の調査訪問から—, 奈良女子大学卒業40周年同窓会(佐保会館), 2009.10.11

② HATTORI Noriko “Women’s Recent Social Situations in Japan” Debate Program “Women’s Participation in Constitution Assembly: Challenges and Opportunities” Tribhuvan University, Padma Kanya Multiple Campus, Nepal, March 7.’08

③ KANO Mitsuko, “Domestic Violence in Japan” Debate Program “Women’s Participation in Constitution Assembly: Challenges and Opportunities” Tribhuvan University, Padma Kanya Multiple Campus, Nepal, March 7.’08

④ 服部範子, 最近のパキスタンにおける女子教育の動向, 日本社会福祉学会第55回全国大会(大阪市立大学)2007.9.23

6. 研究組織

(1) 研究代表者

服部 範子 (HATTORI NORIKO)
兵庫教育大学・学校教育研究科・准教授
研究者番号: 70189570

(2) 研究分担者及び連携研究者

名須川 知子 (NASUKAWA TOMOKO)
兵庫教育大学・学校教育研究科・教授
研究者番号: 50144621

岩崎 雅美 (IWASAKI MASAMI)
元奈良女子大学・生活環境学部・教授
研究者番号: 10083057
(2007~2009年度)

(2010年度 連携研究者)

黒川 衣代 (KUROKAWA KINUYO)
鳴門教育大学・学校教育研究科・教授
研究者番号: 80300375
(2007~2009年度)

(2010年度 連携研究者)

加納 光子 (KANO MITSUKO)
武庫川女子大学・文学部・教授
研究者番号: 30290505

(2007年度)

(2008~2010年度 連携研究者)

畑野 裕子 (HATANO YUKO)
神戸親愛女子大学・発達教育学部・教授

研究者番号: 80167585

(2007年度)

(2008~2010年度 連携研究者)

角田 万里子 (KAKUTA MARIKO)
甲南女子大学・人間科学部・教授
研究者番号: 00131516

(2010年度)

(3) 研究協力者

太田 まさこ (OTA MASAKO)
アジア女性交流・研究フォーラム・主任研究員

(2009年度)